

哲学科

1. 教育研究上の目的

哲学科は、東西の哲学・思想史及び美学・美術史の領域における知識と考え方を教え、学生が各々の研究課題を自立的に追究できるよう指導することによって、専門知識を生かして活動する人材の育成はもとより、広くよりよく生きる力としての教養と思索力を身につけた社会人の育成を目指す。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（哲学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 哲学・思想史、美学・美術史について、それぞれの分野の専門的知識を修得している。
2. 英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ギリシャ語・ラテン語などの外国語の能力、及びそれらの語学力を使って専門文献を読解するために必要な知識と能力を修得している。
3. 漢文や古文の専門文献を読解するために必要な知識と能力を修得している。

（思考・判断・表現）

4. 哲学・思想史、美学・美術史の様々な課題について、専門的な知見によって考究し、その過程や結果を論文、レポート、プレゼンテーションなどを通じて報告・表現するための文章作成力及びプレゼン力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

5. 自ら研究課題とその目標を設定し、探究するために必要な企画・立案力、実行力、発言力、説得力を身につけている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 学科専門科目では、講義・演習を専門分野の体系によって配置し、哲学・思想史、美学・美術史それぞれの専門を修得するための科目を配置・編成する。総合基礎科目では、外国語科目での語学の修得、基礎教養科目での基盤形成を軸に、専門科目を学習するための知識・スキルを養成する配置・編成する。（知識・技能／関心・意欲・態度）
2. 初年次では、語学・教養科目を履修するとともに、学科専門科目としては基礎演習で

哲学・思想史、美学・美術史それぞれの学問的基礎を修得する配置・編成する。2年次以降は、2年次演習や専門の講義科目・演習科目の配置・編成を通じて、専門的な学識を修得し、4年次での卒業論文作成を目標とする。(知識・技能／思考・判断・表現)

(教育方法)

1. C A P 制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目的履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。
6. 初年次教育のための「ジュニア・セミナー」を実施するなど、正規のカリキュラム以外での学修支援も積極的に行う。
7. 3年生には「卒業論文テーマ相談」を、4年生には年2回の「卒業論文中間発表会」を実施することによって、段階的に、然るべき専門論文を執筆できるようにする。

(教育評価)

1. 哲学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、G P Aの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業論文等の評価、G P Aによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

哲学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 自身の見地から物事を論理的に考え、その内容、過程、結果などを的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

3. 哲学・思想史と美学・美術史の諸問題に、授業内容の修得にとどまらず、自発的に関心を持ち、その関心をより深めるために学問、調査、研究を行う意欲がある。

以 上